

学校・家庭・地域で取り組む食育活動【さいたま市】

■団体の名称 さいたま市立新和小学校

■連携している団体 教育委員会、PTA、JA南彩、農家事業所、ヨーロッパ野菜研究会、NPO

■背景・ねらい

本校の周りには田畑が広がり、農業に従事する保護者も比較的多い。自分たちの暮らす地域に関心を持ち、郷土に愛着をもつ子どもたちを育てたい。未来へ希望を抱き、生涯にわたって健康で豊かな生活を送ることができるためには、基本的生活習慣の定着や郷土料理・日本の行事等に対する関心を高める必要あると考え、食育の研究に取り組んだ。

■活動内容

<食に関する授業の実践>

「各教科等と食育指導の関連系統図」作成
理科、家庭、体育(保健)、特別の教科道德、特別活動(学活)

<各児童委員会の取組>

環境委員会、給食委員会、放送委員会、図書委員会、計画委員会

<シェフ給食の実施>

シェフ給食、シェフ&農家さんとの交流会



<給食について考える給食週間>

給食標語、セレクト給食、調理員さんへの手紙

<給食の教材化>

栄養士からの給食メッセージ、地場農産物の利用促進、授業とリンクした献立作成



<保護者との連携>

各種おたより、HP、双方向の食育学習カード、試食会
農家さん・栄養士・児童による公開パネルディスカッション



<地元農家と連携した体験活動>
野菜のさやむき、小松菜収穫、くわい栽培、田植え・稲刈り

■成果

食育に関するアンケート（保護者 集計結果）より

食育の視点	項目（保護者）	[95以上◎ 90以上○ 80以上△ 80未満▲]		
		令和2年12月	令和3年6月	差
①	(1) 子どもは、食べることが好きである。	94 ○	95 ○	+1
	(2) 子どもは、毎日朝ごはんを食べている。	98 ○	98 ○	+0
	(3) 子どもは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を心がけている。	70 ▲	90 ○	+20
②	(4) 子どもは、苦手な食べ物でも、一口は食べるようにしている。	82 ○	83 △	+1
	(5) 子どもは、よくかんで食べている。	78 △	89 ○	+11
	(6) 子どもは、正しい手洗いをしている。	79 △	89 △	+10
③	(7) 子どもは、食事をするときの身じたくの仕方を知っている。	79 △	92 ○	+13
	(8) 子どもは、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしている。	75 ▲	92 ○	+17
④	(9) 子どもは、できるだけ残さず食べている。	81 ○	87 △	+6
⑤	(10) 子どもは、はしの持ち方や食器の並べ方など、食事のマナーに気を付けている。	75 ▲	77 ▲	+2
	(11) 子どもは、家族と一緒に食事をしている。	95 ○	99 ○	+4
⑥	(12) 子どもは、地元の農産物に興味がある。	63 ▲	49 ▲	-14
	(13) 子どもは、郷土料理や日本の行事食に興味がある。	63 ▲	52 ▲	-11

- 2回の保護者アンケートでは複数の項目で肯定的な回答が増えた。一方で「地元農産物や郷土料理への関心」は減少した。継続した取組をしていきたい。
- 児童は食べることに前向きになり、できるだけ残さず食べようという意識が向上した。
- 学校・学年・給食だより「食育コーナー」を作って地域に回覧したり、学校HPの給食コーナーを毎日更新したりして、学校の取組や地域の特色を発信した。保護者や地域の方からは「情報を楽しみにしている」という声をいただいている。